

本号3ページに、弊社主催のセミナーのご案内を掲載しています。ぜひご覧下さい。

BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2012年4月1日発行

Vo1. 35, 第35号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

証券会社が投信の乗換え営業をすると、利用者のコストはこうなる！

銀行や証券会社を利用して投資信託を買う人の多くが、窓口の説明でうまく乗せられて、手数料の高い投資信託など他の投資信託に乗換えを勧められるのですが、こういう人たちは、投資信託の表の「毎月分配」とか「高い分配額」に目が奪われ、肝心のコストに目がいきません。そこには、利用する側の無知もあるのですが、販売する側の販売姿勢やモラルに大きな問題があります。販売する側が自分たちの利益をまず先におき、利用者の利益は考えないのです。

そこで、証券会社が投資信託の乗換えを勧めるときに、いかに手数料が高いかを実際の例で見えてみましょう。彼らも、毎月の予算がありますからその予算をこなすため、本部や業界の自主ルールで制限されていても、「お客様の要望だから」などと理屈をつけて、投信の乗換えによる手数料稼ぎをします。乗換えを勧める背景には、証券会社が手っ取り早く収益を稼げるという、強いインセンティブがあります。

ここに、二つの投資信託を上げます。

	販売手数料 (%)	信託報酬 (%)	現在の純資産額(億円) ()内設定時の額
野村新興国消費関連株 投信(A)	3.625%	1.995%	63億円(2012.1.26) (800億円、2009.07.)
野村グローバル・ハイ・ イールド投信(B)	4.2%	1.72%	9400億円(2011.12.31) (7000億円、2010.3.)

投信(A)は設定時に800億円を集めたのですが、翌年春には純資産額は250億円くらいに急減しました。現在は66億円まで減少しています。一方、投信(B)は、(A)の設定の翌年に設定し、当時7000億円を集め、その後1兆円を越える残高になりました。

残高の動きで見て取れるのは、投信(A)を売って投信(B)に乗り換える動きです。

顧客自らがこのような行動をすることは考えにくく、証券会社の営業セールスが、そこそこ上がって分配金も取れたので、顧客に投信(A)の利息を勧め、新規設定の投信(B)を買寄せたケースがかなり多いと推測できます。

投信(A)は、2010年4月に基準価格が11500円を越え、500円の分配金を出して、当時1500円ほどプラスで売却できたようです。これだけ見ると、利食いではよかったのですが、1年後に投信(A)を売り、投信(B)を買ったとして、その場合の手数料はどうなっているでしょう。その計算式は、次のようになります。

(A)の販売手数料3.625%+(A)の信託報酬1.995%+(B)の販売手数料4.2%:計9.82%

100万円の資金で投信(A)から(B)に乗り換えると、実に手数料のコストが10万円近いのです。投信(A)を1,500円ほどプラスで売っても、手数料分が1000円近く(手数料98200円)、ネットのプラスは500円(100万円に対して5万円)しか残りません。



投資信託を買う場合、あるいはこのように投資信託の乗換えを勧められた場合、手数料はいくら負担するのか、売却の利益は、手数料を除いていくらになるのかをしっかりと確かむことが大事です。

フェイスブックは面白い！

上場も近いといわれるフェイスブック。日本でも、急速にユーザーが広がっています。それでも、ユーザー数は220万人ほどで、米国の1億5000万人、インドネシア(ちょっと意外ですね)3500万人、イギリスの2800万人、トルコの2500万人、フィリピン2250万人などに比べると、まだまだです。トルコ、フィリピンが上位にランクされているのは、興味深いところですね。

私、尾藤も今年から始めたのですが、これがなかなか面白いのです。最初は どう入っていったらいいのか、よくわからなかったのですが(現在も試行錯誤中)、徐々にフェイスブックの良さを感じています。



登録は実名なので、投稿にも責任があります。また、プロフィール、誕生日、出身地、出身校、趣味なども記載できるので、「えっ? 同郷じゃない、とか、自分が励んでいるマラソンをこの人もやるんだ」ということがあったりして、ぐっと親しく感じることも多いのです。そして、「いいね!」ボタンを押したりあるいは押してくれたり、ちょっとコメントをすると返事が返ってきたりして、うれしい気分になります。

また、いろいろな人の考え方や意見も、新たな視点が吸収できて、非常に勉強になります。フェイスブック、やめられなくなりそうです。というより、もっと探究してみる価値があると感じています。

今月の言葉:-

天を楽しみて命を知る。故に憂えず。-易経
天の理法を楽しみ、(楽天)、自分の運命を生きる喜びを知るならば、人に憂いはない。

弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>



毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

株価が上昇しつづける会社の業績や株主還元はこうなっている。

これからも株価が上がり続ける会社の株主還元を見れば、いうことはありません。しかし、なかなかそういう株を探し出すことは、むずかしいです。一方で、これまで株価が上がり続けてきた会社の業績や株主還元はどうだったかを知ることができれば、これからの銘柄選びに大いに参考になることでしょう。

そこで、だれもが知るIBMの過去5年の業績と株主還元の状況を見て、株価があがり続ける会社の実像を見てみましょう。ここで、IBMを取り上げるのは、株価が上がり続ける会社のまさに好例といえるからです。

IBM業績と株主還元状況の推移

	2011	2010	2009	2008	2007
純利益(億ドル)	163	150	134	123	104
FCF(億ドル)	166	154	173	146	115
1株配当金(ドル)	3.0	2.6	2.0	1.6	1.2
配当金(億ドル)	35	32	29	26	21
自社株買い(億ドル)	150	154	74	106	188
合計(億ドル)	185	186	103	132	209
総還元性向(%)	113	124	77	107	232
発行株数(百万)	1190	1269	1327	1369	1434
株価(ドル)	184	147	131	84	108

まず業績ですが、皆さんなじみのある純利益の伸びが素晴らしいです。そして、無視できないのが、フリー・キャッシュ・フロー(FCF)、会社が自由に使える現金です。これが継続して増加傾向にあるのは、実は大変素晴らしいことなのです。これだけでも、十分買いたくなりますね。

しかし、さらに注目すべきところがあります。それは、配当金や自社株買いの株主還元です。配当金は5年で2.5倍、年率20%の増配を続けているのです。さらに自社株買いは、配当金の約5倍を投じているのです。そして、その合計は、5年のうち3年で、純利益やFCFよりはるかに多い額になっています。これは、すごいことです!

自社株買いがこれだけの規模ですので、発行株数はどんどん減っていき、5年で17%も減っています。これが何を意味するかといいますと、利益が5年間横ばいでも、株価を動かす1株利益は20.5%増加するのです。実際の1株利益は、大幅に利益が増加していますから、89%増加です。こうしてIBMの株価は、5年間継続して上がり続け、現在では208ドルまで上昇しています。



こう見てみますと、どうして株価が上がり続けるのかが、よくわかるでしょう。このように、株主還元が行き届き、業績も継続して伸びている会社は、欧米にはたくさんあります。私ども、びとうファイナンシャルサービスでは、お客さまにこのような銘柄をたくさんお勧めし、長い間の株価の上昇と配当金の増加を、楽しんでいただいています。

第14回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』開催！

-こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる-

混迷の世の中、本当のことを知ることが難しくなっています。特に資産運用は、情報があふれかえり、中でも手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動は激しくなっていて、利用者が本当に正しい資産運用の方法を学ぶ機会は、大変限られています。

これからの人生は、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、人生を安心して過ごすことができる「正しい資産運用法」を、ぜひ学んでください。きつかけがない時間となることでしょう。

～参加無料 限定10名～

日時：2012年4月21日(土) 15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「4月21日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： info@bfsc.jp

Tel: 03-6721-8386

講師：尾藤 峰男 ぴとふファイナンシャルサービス代表取締役

講師プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。



◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

30年以上の経験と資産運用の頂点の資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤 峰男だからこそ語ることのできる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します。

日本の将来が不透明で、先行き閉塞感がつる中、老後や家族の将来はどうなるか、一人で考えあぐねていても、解決の糸口はなかなか見つかりません。

証券会社や銀行に相談しても、本当に役に立つ情報は提供してくれません。自分たちが売りたい商品のための情報しか話さないのです。

一度きりしかない人生を幸せに生きるために、資産運用で失敗はできません。金融機関から完全独立で、お客様の利益を最優先におくぴとふファイナンシャルサービスだからこそお話できることがあります。土曜の午後のひと時を、「本当の資産運用とは」を学び、セカンドライフを豊かに過ごすために使ってみませんか。